

## 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

### 1. 今後の見通し

予測期間: 2007年9月下旬から11月上旬までの旬別  
 対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域  
 対象漁業: さんま棒受網漁業  
 対象魚群: 南下回遊群

#### 1) 道東海域

- (1) 来遊量: 9月下旬は高位水準で推移する。10月上旬から減少を始め、10月中旬には中位水準、10月下旬には低位水準となる。11月上旬には、ほぼ終漁となる。
- (2) 漁場: 9月下旬～10月上旬は、落石沖～釧路沖と襟裳岬沖周辺に漁場ができる。落石沖の漁場は10月中旬には消滅し、10月中旬～下旬は、釧路～襟裳岬沖が漁場となる。釧路沖の漁場は、11月上旬には消滅し、襟裳岬沖でも散発的となる。

#### 2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 9月下旬には断続的ながら来遊がある。本格的な来遊は、10月上旬以降となる。10月中旬以降は中位水準で推移する。11月上旬から減少を始める。
- (2) 漁場: 9月下旬には八戸～宮古沖において断続的ながら漁場が形成される可能性がある。10月上旬は三陸北部が主漁場となる。10月中旬には、漁場が三陸南部まで広がる。

#### 3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 10月上旬は来遊量が少なく、漁場ができるのは10月中旬以降となる。10月下旬には、中位水準まで増加する。
- (2) 漁場: 10月中旬は、常磐北部において断続的ながら漁場が形成される可能性がある。来遊が本格化する10月下旬は、常磐北部が主漁場となる。

### 2. 予測の概要

海 域		9月下旬	10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬
道東海域	来遊量					
	動向	高位水準	高位減少	中位減少	低位減少	断続的
	漁 場	落石～釧路沖・襟裳岬沖	落石～釧路沖・襟裳岬沖	釧路～襟裳岬沖	釧路～襟裳岬沖	襟裳岬沖
三陸海域	来遊量					
	動向	断続的	低位増加	中位水準	中位水準	中位減少
	漁 場	八戸～宮古沖	北部	北部～南部	北部～南部	北部～南部
常磐海域	来遊量					
	動向		断続的	低位増加	中位水準	中位水準
	漁 場			北部	北部	北部

### 3. 漁況の経過概要

(9月上旬)

#### 1) 道東海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前年を上回り、中位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、旬半ばから徐々に来遊量が増加した。

##### (2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石南南東～南の 15～50 海里付近(表面水温 13～16℃)と霧多布南南東～南の 15～30 海里付近(13～14℃)であった。落石沖では、2 日夜までは漁場が出来なかったが、3 日夜以降は連日漁場となり、大型船も操業した。漁獲量は徐々に増加し、9 日夜には、大型船で 70 トン程度漁獲した。霧多布沖では、6 日夜以降、小型船が数隻～20 隻ほど操業し、満船となる船もあった。

##### (3) 魚体

30～31cm モードの大型魚が主体。中型以下の魚の混じり具合は、日によって異なり、1～4 割程度。体重 160～170g 台が主体。